



- 01 プロと一緒に生きもの調査！
- 02 各種取組の実績（6～7月分）
- 07 お知らせ
  - 07 いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果
  - 07 いわき地方の出荷制限等品目
  - 07 食品表示法あれこれ
  - 08 「いわき直売所フォトコンテスト 2023」開催！
  - 08 いわき農林事務所公式 SNS 紹介
  - 09 「Do you 農林業？人と自然が好きになる農林業キャンプ in いわき三和・田人」参加者募集中！
  - 10 6次化商品紹介
  - 11 高校生発！いわきテイクアウトメニュー優秀レシピ紹介

特集

## プロと一緒に生きもの調査！

7月4日（火）、勿来第三小学校の児童1、2年生を対象に、「ふくしまの農育」推進事業「生きもの調査」を学校近くの小川で実施しました。

県農林水産部では、県内の小学生を対象に、「食・命の大切さ」「農業・農村環境の大切さ」「自然環境の大切さ」について理解を深めることを目的に、この事業を実施しています。

当日は曇り空でしたが、程よい風もあり、絶好の生きもの調査日和でした。

講師は、アクアマリンふくしまから、城倉さん、永山さん、春本さんをお招きし、生きものの採取方法、観察方法、特徴まで詳しくご指導いただきました。

まずは、小川へ入る前にアクアマリンふくしまの先生から、下流に網を置き、上流側から足でガサガサと踏みつけて生きものを網に追い込むなど、捕まえ方を教えてもらいました。

そして、二人一組になり、網とかごを持って調査開始！

最初、児童たちは、水辺に入るのもおっかなびっくりでしたが、徐々に慣れてきて、生きものが網に入ると大喜びで、積極的に生きものに触れていました。

採取が終わり、捕まえた生きものを水槽に移動し分類したところ、なんと約20種類にも及び、ドジョウや小魚類、エビやカニなどの甲殻類も捕まえることができました。

その後、アクアマリンふくしまの先生から、生きものの特徴から生息域まで詳しく教えていただきました。



▲ 調査方法の説明



▲ 調査の様子



▲ 生きものの解説に興味津々の児童たち

生きもの調査を終えて、児童たちからは、「色々な生きものがある事が分かった」「生きものに触れるようになった」などの感想がありました。

最後に、子供たちからアクアマリンふくしまの先生方にお礼の言葉があり、調査は終了。

身近な農村の川辺に色々な生きものがあることを学ぶ良い機会となり、みんな大満足の生きもの調査でした。 (農村整備部)

児童たちは、アメリカザリガニをつかんだり、ドジョウのひげをルーペでのぞいたり、熱心に生きものを観察していました。

また、普段はアクアマリンふくしまで飼育しているゲンゴロウやタガメを特別に観察させてもらいました。タガメは、ストロー状の口から吐き出した消化液で、相手の体の中を溶かし、溶けた部分を吸って捕食すると聞くと、児童たちは少し怖がっていました。



▲ 生きもの観察

**福島県指導林家研修会** 6月8日(木)

福島県指導林家研修会がいわき市田人町旅人字弥太郎地内において開催されました。

県では、地域林業振興や林業後継者育成確保のため、林業経営や技術等において地域の模範となり、地域林業振興に理解と熱意のある方を「指導林家」として認定しています。

現在、県内では16名の方が指導林家として認定され、県の要請に基づいて、林業後継者等の実践学習に対する指導助言や地域林業振興に関する活動に積極的に取り組まれています。

それらの活動の一環として、指導林家研修会を年に1回実施していましたが、コロナ禍の影響もあり、4年ぶりの開催となりました。いわき市での開催となった本年度は、バイオマス燃料向けなどの用途として近年注目されている、早生樹の実証試験地を視察しました。 (森林林業部)



▲ 早生樹について説明を受ける指導林家の皆さん



▲ コウヨウザン(6月号参照)の実証試験地



## いわき市内団共長連絡協議会

6月19日(月)

いわき市中央台公民館において、いわき市内団共長連絡協議会通常総会及び事業推進会議が開催されました。当協議会は、いわき市内の団地共同森林施業造林組合の長が構成メンバーとなり、林業に関する研修視察や山火事防止のための啓発活動、いわき市森林組合の林業コンクールへの参加など、各地域の林業を推進する活動をしています。

通常総会の後に併催された事業推進会議では、当所森林林業部職員が講師を務め、令和5年度の森林整備事業の内容や、主伐・再造林の必要性などについて、説明を行いました。

内容について何点か質問の声が上がるなど、造林組合長の皆さんは熱心に耳を傾けていました。今後とも森林整備の推進にご協力をお願いします。  
(森林林業部)



▲ 通常総会の開催状況

## 第1回いわき農業普及推進懇談会を開催

6月20日(火)

農業者、関係機関・団体等の意見・要望を普及指導活動等に反映させ、効率的な活動を実施することを目的に、いわき農業普及推進懇談会を毎年開催しています。

今年度第1回目の懇談会は、今年度の普及指導計画やこれまでの取組などを説明した後、構成員それぞれの立場からご意見やご助言をいただきました。

また、現地調査として、新規就農者の研修受入施設となっている草野いちご園を訪問し、いちご栽培や研修希望者の受入状況等を実際に見ていただきました。

懇談会でのご助言等は、今後の普及指導活動にいかしてまいります。

(農業振興普及部)



▲ 懇談会の様子

## 幼稚園で野菜教室を開催

6月22日(木)

いわき農業青年クラブ連絡協議会が、江名幼稚園で野菜教室を開催しました。幼稚園の園庭の一部に畝を2本立てて、園児14名と一緒にサツマイモを定植しました。園児たちはクラブ員に元気よく質問したり、楽しそうに作業していました。

この日、作業中は曇り空で、植え付けが終わったタイミングで雨が降り始めるという定植には絶好の天候でした。秋には再び野菜教室を開催し、サツマイモを収穫する予定です。  
(農業振興普及部)



▲ 園児たちにサツマイモの植え方を教えるクラブ員

あいやえすじ  
愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？施設巡りバスツアー開催！ 6月23日(金)

愛谷堰土地改良区の主催で、第21回治右衛門の堰「あじさい祭り」と題し、愛谷江筋の施設を巡るバスツアーが開催されました。このツアーは、平赤井地区にある愛谷堰頭首工から平下高久地区へと流れる農業用水路「愛谷江筋」について理解を深めるとともに、農業水利施設の役割と維持管理の大切さを知ってもらうことを目的とし、例年開催されています。

今年は夏井小学校の4年生5名が参加し、愛谷堰頭首工、茨原川サイフォン、北白土除塵機、大越藤間第二排水機場を見学しました。最後に、あじさい散歩道を歩きながらゴミ拾いを行いました。

参加した子どもたちは、土地改良区職員の説明を聞きながら、初めて見る施設に興味津々の様子でした。

(農村整備部)



▲ 愛谷堰頭首工



▲ あじさい散歩道

福島県指導農業士会女性会員研修会を開催

7月3日(月)

福島県指導農業士会では、女性会員研修会を毎年開催しています。

今年は、いわき地方での開催となり、エヴリート株式会社(勿来町)と大河内ひとみ氏のトルコギキョウ(山田町)のほ場を視察しました。

女性だけの研修会ということで、様々な話が飛び交い、終始笑顔が絶えない楽しい研修会となりました。

研修終了後は、勿来温泉 関の湯で情報交換会を行い、会員同士の連携がより一層深められました。

当所では、引き続き指導農業士会の活動を支援してまいります。

(農業振興普及部)



▲ 女性会員研修会の様子



**農林水産部いわき地方出先機関の長会議 現地調査** 7月7日(金)

いわき管内の農林水産部出先機関（いわき農林事務所、水産事務所、水産海洋研究センター）による現地調査として、今年度は浪江町の施設を視察しました。

請戸地方卸売市場は、震災で被災し、令和2年4月に再開した施設です。水産事務所平田所長及び相馬双葉漁業協同組合網谷信行氏より、漁業者数、水揚げ金額等の震災前との比較、水揚げされる魚種の変化等について説明を受けました。

有限会社柴栄水産では、代表取締役柴強氏より、早くから活魚輸送を手がけ、築地市場で高い評価を得てきた会社の歴史、震災から営業再開までの経過について説明を受けた後、いけすや、シラスの加工設備を案内していただきました。「常盤もの」の品質に誇りをもち、請戸漁港に水揚げされる魚を流通させるために事業再開を決断したという、熱い思いを伺いました。

福島県高度集成材製造センターでは、センターを運営する株式会社ウッドコアの代表取締役陰山寿一氏に挨拶をいただいた後、工場長の高増幹弥氏より、原木を製材し、乾燥、接着して集成材を製造するまでの工程を、現場で流れを追いながら説明を受けました。集成材製造工場としては日本最大級とのことで、大型機械で大量に生産されていく様子は圧巻でした。最大 1,250×1,250mm もの大断面の集成材を製造できるとのことで、脱炭素に向け、様々な建築物への木材活用が期待されるものでした。 (総務部)



▲ 請戸地方卸売市場



▲ 福島県高度集成材製造センター

**令和5年度農林水産業振興計画いわき地方意見交換会を実施** 7月14日(金)

県では、昨年度からスタートした「福島県農林水産業振興計画」を周知するとともに、各地方の課題等を把握して次年度の施策に反映させるため、県内7地方で農林業者や関係団体との意見交換会を開催しています。

当所では、県いわき合同庁舎においていわき地方意見交換会を開催しました。はじめに、県から農林水産業振興計画に基づく令和4年度実績及び令和5年度 of 取組概要について説明した後、いわき地方の農林業の課題や必要な取組等について、意見交換がなされました。出席者からは、それぞれの団体の取組や県への期待、担い手の確保・育成、ブランド力の向上等について、様々なご意見・ご提案がありました。いただいたご意見等を今後の農林業振興にいかし、本計画の基本目標である「『もうかる』『誇れる』共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村」を目指し、各種施策に取り組んでまいります。 (企画部)



▲ 意見交換会の様子

Topic

### 三和町産のニンニクできました！

6月15日～17日にかけて、三和町でニンニクの収穫作業が行われました。

ハートフルな福島で、心を込めて作ったニンニク。また、ニンニクを逆さにするとハート型に見えることから、生産者の菊田清貴さんは「ふくしまハートにんにく」と名付けたそうです。

現在、三和ふれあい市場や長居小で販売されています。将来的には、首都圏にも販売していきたいそうです。ニンニクを三和町の新たな特産品にするため、奮闘は続きます！（企画部）



▲ 三和町のかあちゃんたちによる収穫作業



▲ 素敵なパッケージの「ふくしまハートニンニク」

【「ふくしまハートにんにく+1」プロジェクト】

○プラス1とは？

- ・「福島の食材はおいしい」「福島を応援したい」という福島ファンを1人でも多く増やしたい。
- ・ニンニクと相性の良い福島県産の水産物や畜産物とともに風評被害を乗り越える

○810（ハート）229（ニンニク）+1とは？

- ・風教被害を払拭したい。
- ・風化はしてほしくない。

**81+0+229+1=？**

Topic

### どう漁業

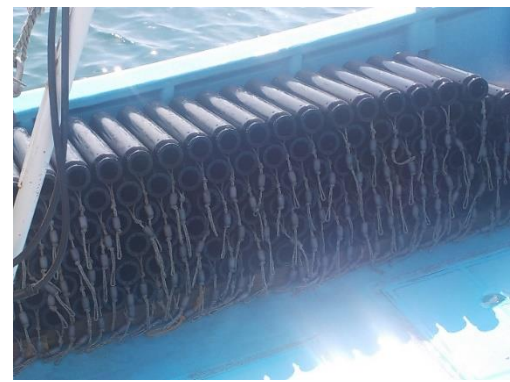
どう漁業とは、『どう（筒状の漁具）』にイワシなどの餌を入れて海底に沈め、魚を獲る漁のことをいいます。生きたまま水揚げすることができ、鮮度の落ちが早い「アナゴ」に適した漁法です。

海底に一昼夜沈めた約300個のどうは、毎朝船上にあげられ、餌を入れかえ、再び沈められます。多いときには、一度に300尾ほどのアナゴを獲ることができます。

福島県水産海洋研究センターの研究では、旬とされる夏期のアナゴは、冬期に比べて脂質が多く、うま味成分であるアミノ酸も多く含まれていることが明らかとなりました。また、アナゴは「高タンパク」かつ「低カロリー」で、夏バテ防止にも適しています。今年の土用の丑の日は、ウナギではなくアナゴを食べてみてはいかがでしょうか。（水産事務所）



▲ どう漁業で水揚げされたアナゴ



▲ 海中投入前のどう（船上）

## お知らせ

### いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果(令和5年6月分)

令和5年6月の農林畜産物モニタリング検査では、11品目19検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。内訳は表1のとおりです。(企画部)

(表1) 品目と検体数

ホウレンソウ(施設)1、パレイショ1、タマネギ1、グリーンピース1、サヤインゲン1、ダイコン1、大麦1、小麦1、菌床きくらげ(施設)1、牛肉9、原乳1

#### 海産魚介類の検査結果

令和5年6月の水産物モニタリング検査では、162検体の海産魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。(水産事務所)

### いわき地方の出荷制限等品目

令和5年6月末現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷制限等の対象となっている品目は(表2)のとおりです。出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。(企画部)

(表2) 農林畜水産物の出荷制限等品目(令和5年6月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る) <sup>※1</sup> 、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ <sup>※2</sup>
	海産魚介類	クロソイ
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

※1 わらび(栽培)で出荷・販売できるものは、安全性が確認されたほ場で生産されたものに限ります。(市内該当生産者15名のみ)

※2 野生きのこは、摂取も制限されています。

### 食品表示法あれこれ ④ 詰め合わせ商品の食品表示

個包装された食品の詰め合わせを販売する際に、表示をどこにすればよいか?という問い合わせをいただくことがあります。様々なパターンがありますが、代表的なものを紹介しますので、表示作成の参考にしてください。

**基本的には、外装(小売のための包装)に表示を行います。**

ただし、以下の場合には、他の方法によることができます。

①単なる詰め合わせ商品で、詰め合わせ食品の一つ一つに表示があり、外装が透明で内装の表示が見える場合  
→外装への表示は不要です。

②詰め合わせたものを全て使用して食することを意図した商品の場合(例:カップ麺、鍋セット等)  
→全体を一つの食品とみなし、当該加工食品の原材料として、外装に全て表示してください。

③弁当や刺身等にしょうゆやタレ等の調味液が付属しており、調味液の表示が見える場合(例:弁当に小袋で付属する醤油、かつおのたたきに付属するタレ等)  
→単なる詰め合わせ商品とみなし、外装への表示は不要です。

その他詳細は、**食品表示基準Q&A 加工-247~252**をご確認ください。



(企画部)

## 「いわき直売所フォトコンテスト2023」開催！

いわき産農林産物や直売所の魅力を消費者の皆さまに知っていただくため、SNS等を活用したフォトコンテスト（「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン）を実施します。

■応募期間 令和5年8月1日（火）～10月31日（火）

■応募方法

### 〈Instagram または Facebook からの応募〉

①以下の写真を撮影

- A：対象店舗の外観
  - B：対象店舗で購入した農林産物（加工品も可）
  - C：対象店舗で購入した農林産物を使用した料理（任意）
- }（必須）

※1つの投稿で添付可能な写真は1～4枚とします。

②当所公式 Instagram アカウント（@iwaki\_nourin）または Facebook アカウント（福島県いわき農林事務所）をフォロー

③ハッシュタグ「#いわき直売所フォトコンテスト2023」をつけて Instagram または Facebook に投稿（コメントには、購入した農林産物の感想や直売所の魅力を記載してください。）

### 〈メールからの応募〉

コメントを記載したメールに写真を添付し、kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp 宛てに送信してください。（応募内容は公式アカウントで紹介します。）

■賞品

所長賞（1名）：いわき産「福、笑い」新米 4 kg + 6次化商品詰め合わせ（計 7,000 円相当）

次長賞（1名）：いわき産「福、笑い」新米 2kg + 6次化商品詰め合わせ（計 5,000 円相当）

参加特別賞（抽選で 25 名）：いわき産「福、笑い」新米 2 合 + 6次化商品（計 2,500 円相当）

■主催・お問い合わせ：福島県いわき農林事務所 企画部（TEL：0246-24-6197）

※対象店舗、注意事項等については、当所 HP をご覧ください。（令和5年8月1日（火）更新予定）

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/itakyan-photocon2023.html>

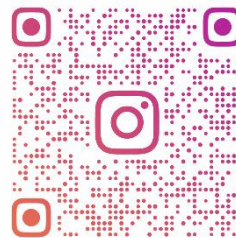
（企画部）



## いわき農林事務所公式 Instagram・Facebook 紹介

当所では、Instagram・Facebook を活用して、いわき地域の農林水産業に関する旬な情報をお届けしています。ぜひぜひフォローお願いします！

（企画部）



IWAKI\_NOURIN

▲ Instagram



▲ Facebook



know  
「Do you 農林業? 人と自然が好きになる農林業キャンプ in いわき三和・田人」 参加者募集中!

首都圏及び県内の大学生等を対象に、いわき市三和町・田人町で農林業体験や地域の方々との交流ができる、1泊2日のツアーを実施します。友人やサークル仲間など、お誘い合わせの上、ぜひご参加下さい!

- 日程：9月2日(土)～3日(日) ※1泊2日
- 対象：首都圏及び県内の大学生  
(短期大学・高等専門学校(4年生以上)を含む)
- 参加費：5,000円
- 定員：20名
- 内容：農林業体験、地域住民との夕食交流会(BBQ)、木工ワークショップなど  
※宿泊先：ハッシュ村(テント泊)
- 主催：県いわき農林事務所
- 募集期限：8月11日(金) 15:00まで
- お問い合わせ：株式会社福島民報社いわき支社

TEL：0246-23-3232

■ 応募フォーム：<https://www.mwt-mice.com/events/taiken-tour2023/login>

詳細については、以下の URL をご覧ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/r5-nk-boshu.html>

(企画部)



▲ 応募フォーム

know  
Do you 農林業?  
人と自然が好きになる  
農林業キャンプ  
in いわき三和&田人  
首都圏と福島県内の学生対象

- 旅行期間：9月2日出～3日(日)
- 旅行代金：5,000円
- 参加人員：20名(最少催行人数15名)  
※申込締め切り迄募集と並行に催行人数が増える可能性があります。
- 対象：首都圏と福島県内の大学生  
※短期大学・高等専門学校(4年生以上)を含む
- 宿泊施設：ハッシュ村(テント泊)
- 利用バス：国際興業観光バス
- 食事条件：朝食1回/昼食2回、夕食1回
- 集合場所：①首都圏の学生=7:00 東京駅  
②県内の学生=9:30 いわき駅
- 添乗員：同行いたしません。  
福島民報社スタッフが東京駅から同行いたします。

▶ お申し込み方法：右の二次元コードから専用フォームにアクセスし、8月11日15:00までにお申し込みください

雨天決行  
雨天中止

◎本ツアーにご参加いただいた方には、アンケートにお答えいただけます。アンケートの結果は、今後の企画参考資料とさせていただきます。◎ツアー催行中、マスコミ等の取材撮影が入る場合がございます。ご了承ください。

◆事業主体：福島県いわき農林事務所  
◆共同企画：福島民報社  
◆旅行企画・実施：名鉄観光サービス㈱福島支店

休職内閣に関するお問い合わせは  
福島民報社でお受けします。  
事務局：福島民報社いわき支社 電話0246(23)3232

Topic

いわきハタチ酒プロジェクト ～二十歳の年の、米作りから酒造り体験～  
第6期 酒米「夢の香」ぐんぐん生長中! 7月19日(水)

当ニュース5月号で田植えの様子をお届けした「いわきハタチ酒プロジェクト 第6期」。ほ場の現在の様子をお届けするため、写真に収めてきました!

田植え当時、手のひらサイズだった「夢の香」の苗はぐんぐん伸び、茎の数も増えて逞しくなっていました。

事務局の担当者によると、生育状況を踏まえて、稲刈り実施日の見込みをつけていくとのこと。

今後の活動が楽しみです!

(企画部)



▲ 青々とした田んぼ

Topic

いわきのかぼすとすだち・生産者を紹介！

下段の6次化商品紹介コーナー掲載の、「サンシャインいわきすだちサワーエール」に使用されているすだちの生産者である田中清さんのほ場（四倉町）にお邪魔してきました。

県内でも珍しい柑橘類の栽培は、福岡県出身の田中さんが平成9年から始めました。かぼすの苗木10本から始まり、現在ではかぼす約220本、すだち約25本に拡大。宮崎県特産の柑橘へべすも試験的に栽培しているそうです。ほ場には、かわいいサイズのかぼすやすだちがたくさん実っており、秋頃の収穫に向けてすくすく生長しています。

田中さんのかぼすやすだちは、サワーエールを始めとして様々な商品に使用されているほか、道の駅よつから港（四倉町）や産直市場 田舎んぼ（草木台）などの直売所で秋頃から販売されます（販売はかぼすのみ）。「これからはもっと栽培に力を入れていく」と意気込んでいる田中さん。いわき市唯一のかぼすとすだちの今後が楽しみです。（企画部）



▲ 約1~2cmのかわいいすだちの実



▲ 田中さんと栽培当初から唯一残っているかぼすの木

こだわりと美味しさがつまった  
いわき自慢の6次化商品をご紹介します

昨年「サンシャインいわきかぼすエール」を発売した福島県南酒販株式会社いわき支店から、新たに「サンシャインいわきすだちサワーエール」が発売されました。

いわき市四倉町産のすだちを使用し、かぼすエールと同様、田村市都路町にある(株)ホップジャパンで醸造しています。その名のおりすだちの爽快な酸味が特徴、苦みは控えめで唐揚げなどの揚げ物と相性バツグン！淡い金色が涼しげな、暑い季節にぴったりのごくごく飲めるクラフトビールです。

すだちサワーエールとかぼすエールってどう違うの？とお思いかもかもしれませんが、全然違います。ぜひ、飲み比べてみてください！

販売元・お問い合わせ  
福島県南酒販株式会社いわき支店  
📍いわき市平赤井字畑子沢1-61 ☎0246-36-2131

地域と連携した商品開発に意欲的に取り組んでいます！

福島県南酒販株式会社  
いわき支店  
國分 智史支店長

サンシャインいわき  
すだちサワーエール  
●内容量330ml 700円(税込)

市内の各酒販店、道の駅、  
いわき・らら・ミュウ等で販売中！

第3回高校生発！いわきテイクアウトメニュー開発 優秀レシピ紹介 vol.5

昨年度、地元農林産物の魅力を発信するため、市内の高校生と飲食店等が共同でテイクアウト商品を開発した「第3回高校生発！いわきテイクアウトメニュー開発」。当所のホームページにレシピ集を公開中です！  
今回は「ダイニングキッチン月海-Ruu-」のおすすめレシピ「ゴロゴロ野菜のキーマカレー」をご紹介します！



**おすすめ  
レシピ**  
ダイニングキッチン  
月海-Ruu-

## ゴロゴロ野菜のキーマカレー





児山 倫さん、岡田 涼音さん、  
石川 綾香さん  
福島県立磐城桜が丘高等学校 3年  
(応募時)

調理時間：45分  
食材費(2人分相当)：652円

**材料**

カレールウ	1/4パック
にんじん	1本
ピーマン	2個
玉ねぎ	1個
挽き肉	200g
塩	少々
コショウ	少々
ウスターソース	少々
米(Iwaki Laiki)	200g
バター	10g
トマト	2個
スライスチーズ	2枚

**作り方**

- ① 米は、バターを入れて炊飯する。
- 【カレー】**
- ② にんじん、ピーマン、玉ねぎをみじん切りにし、カレールウもあらかじめ細かく切っておく。
- ③ 熱したフライパンで挽き肉を炒めて塩とコショウで味を調え、火が通ったらいったん取り出しておく。
- ④ にんじんを炒め、水(分量外)を加えて煮る。
- ⑤ 水分が飛んだら、玉ねぎを入れてさらに煮る。
- ⑥ ピーマンを入れ、しんなりしてきたら⑤を戻す。
- ⑦ カレールウ、ウスターソースを加えて弱火で煮る。

**【飾りトマト】**

- ⑧ トマトは洗ってヘタを取り、切り込みを入れる。
- ⑨ 水気を切って耐熱皿に置き、チーズをのせる。
- ⑩ 140℃のオーブンで10分焼いた後、150℃で10分、焦げ目がつくまで焼く。

**【仕上げ】**

- ⑪ カレーをお皿に盛りつけ、⑩のトマトをのせる。
- ⑫ ごはんを一口サイズに丸め、盛り付けて完成。

**作品のPRポイント**

トマトをオープンでじっくり焼いて火を通すことによって、皮まで柔らかくなり、さらにチーズをのせることで苦手な人でもおいしく食べられるようになっています。野菜をたっぷり使用したので栄養豊富です！トマトを割って汁があふれてくれば2度楽しめるカレーになります！

**【レシピを参考に作ってみた！】**

材料だけ揃えて、思うがまま調理しました(とろけるチーズだけ買い忘れました)。今が旬の桃で甘味を出し、水気は少し残したままのキーマカレー。  
トマトは、いわき産のフルーツトマトを魚を焼くグリルで焼き上げ、夏野菜の代表格ナスは油で焼き、それぞれカレーに添えて出来上がり。焼きトマトを崩してカレーと一緒に食べると味変で美味しい。焼きナスも相性抜群！レタスで巻いてもよし！  
暑い夏は、キーマカレーで乗り切りましょう！ (よも)

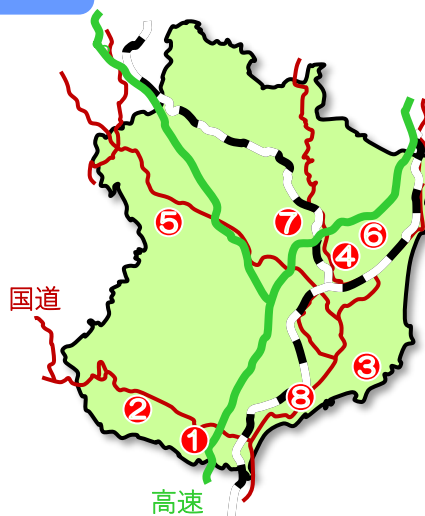
**レシピ集はこちら！**



今月号に掲載した場所はこちら！

- ① 勿来第三小学校 (p.1)  
勿来町酒井北ノ内
- ② 福島県指導林家研修会 (p.2)  
田人町旅人字弥太郎
- ③ 江名幼稚園 (p.3)  
江名字上代
- ④ 愛谷堰頭首工 (p.4)  
平赤井字大作場
- ⑤ 三和町ふれあい市場 (p.6)  
三和町下市萱
- ⑥ かぼすとすだちほ場 (P.10)  
四倉町山田小湊
- ⑦ 福島県南酒販株式会社いわき支店 (P.10)  
平赤井字畑子沢 1 - 6 1
- ⑧ ダイニングキッチン月海-Ruu-(p.11)  
植田町中央一丁目 3 - 3

いわき市  
MAP



【リンドウの出荷が始まりました】※表紙の写真について

いわき市では、「かせん極早生」という品種が一番初めて出荷されます。  
鮮やかな青紫色を見ていると、夏が近づいてきたなあと感じます。  
これからお盆に向けて、数種類の品種が咲き始めます。  
よく見ると、葉や花の形、花の色等が違うので、観察してみると面白いですよ！  
是非、直売所やスーパーなどで購入して、花の形や色等を見比べてください！  
お気に入りのリンドウが見つかるかもしれません！

(農業振興普及部)



あとがき

いよいよ本格的な夏の始まりです！暑い日が続きますが、こまめに水分を補給して熱中症にならないよう注意しましょう。

先月号でご紹介した、山田町の田んぼアートが見頃を迎えたということで、見に行ってきました。地元の小学生がデザインした今年の干支である兔(うさぎ)が可愛らしく描かれていました。「1400のネタばらし」でも動画を公開する予定ですが、是非現地に足を運んでご覧ください。

また、8月から「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンとして「直売所フォトコンテスト2023」を開催します。ご応募お待ちしております！ (T・M)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196  
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース